

## I 研究主題

### 自分の考えを表現し、確かな学力につながる授業づくり

～自分の考えを視覚化できる算数科のノート指導を通して～

## II 主題設定の理由

### ○社会の状況・要請

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で重要となる「知識基盤社会」の時代と言われている。また、グローバル化が叫ばれ、国際競争が加速するとともに国際協力の必要性も増大している。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことは、現代の最重要課題である。こうしたことから、基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させるとともに、思考力や判断力、表現力を高めることや学んだことを活用する力を育成することが、今、学校教育に求められている。

### ○前年度までの研究

学力向上と望ましい人間関係の構築をめざして『学び合い』学習の研究を3年間進めてきた。1年次の算数科の授業実践を2年次からは他教科の実践へと広げ、その中で「教師の役割の明確化」「教科の特性に応じた学習課題の設定」「表現力の育成」「学び合いを高める自己評価」について研究を深めた。

その結果、受動的だった子どもたちの学習態度に変容が表れ、少しずつ自己表現ができるようになり、お互いに高め合おうとする関係が育ってきた。また、複数教科に広げたことで、多様な考えや友達のよさに気づくことができ、学びが深まるとともに、自分の考えに自信が持てるようになった。

一方、友だちと共に学ぶことで自力解決の意欲が低い子どもが見られることや学力の伸びが数字として表れない、人間関係の構築に関する成果ほど学力向上に手ごたえが感じられない等の課題も見えてきた。

### ○子どもの実態

- ・ 基本的な生活習慣を身につけ、素直な言動をとる子どもが多い。
- ・ 指示されたことを真面目に取り組む子どもは多いが、学習に主体的に取り組む子どもは少ない。家庭学習は、宿題のみの子どもが多い。
- ・ 自分の考えを表現する子どもは増えてきたが、消極的な子どもも今だ多い。また、的確な表現方法を身につけている子どもは、多いとはいえない。

以上のことから、『自分の考えを持って、物事に主体的に関わろうとすること』が本校児童の課題として見えてきた。その課題を解決することで、「生きる力」を持つ子どもに近づけると考えた。そこで、課題に対し自分の考えを持つ『思考力』や考えを伝え合う『表現力』をつける授業づくりを仕組むことで「確かな学力」につなげたいと考え、テーマを「自分の考えを表現し、確かな学力につながる授業づくり」と設定した。

考えを持ち、表現を形にするために「ノートづくり」を中心とした授業に取り組むことにした。友だちに解ってもらうためのノートをつくり上げることは、算数的表現力を伸ばすこととなると考え、サブテーマにノート指導を取り入れた。また、ノートに書き視覚化することによってより考えをはっきりさせることができること、学びの財産として積み上げができることなどの利点もノート指導を取り上げた大きな理由である。

## III めざす「子ども」の姿 ※低・中・高ごとのこども像

- ・ 課題について様々な考え（気づき、疑問など）を持ち、解決をしようとする子ども



- 解決しようとする意欲を持ち続ける子ども
- 自分の考えを表現したり、友だちと学び合ったりして、よりよい解決方法を探ることがで

きる子ども

※ 友だちに解ってもらえるためのノートをつくることができる子ども

#### IV 研究目標

解りやすいノートをつくることを通して、自分の考えを持ち、よりよい表現ができるようになることにより、学力向上を図る。

#### V 研究の内容

- 1 表現力・ノート指導の理論研究を行い、指導法のあり方を探る。
- 2 子どもの意識・実態を把握する。
- 3 ノートの基本的書き「型」について、モデル化・共有化を図る。
- 4 表現活動と確かな学力を身につけることをめざした授業実践・考えを表現したくなる学習課題や授業の構成（学習過程、学び合いなど）を研究する。
- 5 ノートを通じた評価のあり方を研究する。
- 6 研究の成果と課題のまとめの作成

#### VI 研究の方法

- 1 講師招聘による勉強会や参考文献の読み合わせなどによる理論研究を行う。
- 2 アンケートや学習状況調査、学力テスト等により、子どもの意識・実態調査を行い、分析を行う。
- 3 学年グループにおいて、「めざす子ども像」「めざすノート」を設定し、系統性のある高まりを目指す。
- 4 ノートづくりや表現活動を学習過程の中でどう位置づけるかを授業実践から学び合う。
- 5 学習課題や表現方法が適切であったかを授業実践から検討する。
- 6 研究冊子（研究ノート）をつくる
- 7 確かな学力を支える環境づくりを行う。（データベース等の活用、学習習慣作り、学ぶ意欲をつくる環境づくり）